

先日、新潟大学医学部消化器内科学教室から、令和4年度の消化器内科分門の教科書を送っていただきました。今年度からは、紙の教科書は無くし、CDのみとしたという事でした。当院には、研修医や医学部学生が研修・実習に来られますので、その教科書を見させていただきました。大学教室の完全オリジナルであり、40年以上前に医学教育を受けた身には新鮮なものもありました。また、日本の人口の長期推移なども記載されており、老化・生活習慣病にも対応する消化器病学の教育もなされているようでした。そうしたなか、下記のようなスライドもあり、はっとさせられました。出来始めの癌を発見することは不可能なわけで、いかに治療ができる状況で見つけるか、適切な検査タイミングが必要と再認識した次第です。

がんの増殖 = 2ⁿ

- ・がんはもともと**1個の細胞**に由来する。
- ・1個のがん細胞の重さを1ng(10⁻⁹g)とすると30回分裂する(2³⁰)と、がんは1gの大きさになり、早期発見される。
- ・そして40回分裂(2⁴⁰)し、1kgの大きさになるまでに致命的になることが多い。
- ・そのため、がんが発見され治療を受ける時間は1個のがん細胞が生まれてから全時間の4分の1に過ぎない。

	発生	未発見・増殖	発見・治療
分裂回数	0	20	30
細胞数(蓋さ)	1(1ng)	10 ⁶ (1mg)	10 ¹² (1kg)

①正常細胞 → ②異常な細胞 → ③「がん化」 → ④「腫瘍形成」 → ⑤「転移・浸潤」
 ①正常細胞 → ②異常な細胞 → ③「がん化」 → ④「腫瘍形成」 → ⑤「転移・浸潤」
 ①正常細胞 → ②異常な細胞 → ③「がん化」 → ④「腫瘍形成」 → ⑤「転移・浸潤」

図参照: <http://ganjoho.jp/hikkei/chapter3-1/03-01-01.html>

新潟大学医学部消化器内科教科書より

患者様が多く、食欲不振や嗜好の問題への対応が必要です。そういう方々へ、管理栄養士が聞き取りし、食べ具合などを見ながら個別に献立を作っています。献立が複雑になりスタッフの負担も増えますが、少しでも食べていただき栄養状態の改善の一助になればと考えています。さらに、食事のみではどうしても栄養が不足する場合には、栄養補助食品も使用しています。様々な種類を用意しており、栄養価・味・容量・物性、特殊な栄養素など、患者様の体に合わせた栄養補給につなげられるよう努めています。患者さんから、“これなら食べられるよ”とおっしゃっていただいたときは介入して本当に良かったと思います。他には栄養指導により病気に合わせた食事指導や、低栄養の方への栄養指導の依頼にも対応しています。また、チーム医療への参画もしており、NST(Nutrition Support Team)や糖尿病教室、入退院支援など、多職種での様々な活動にかかわらせていただいています。何十年も前は、病院食の提供が業務の中心でしたが、現在は、様々なニーズが増えていきます。より患者様に満足いただける栄養サポートの提供が求められており、要望に応えられるように努力していきたいと思っています。

さて前号で、入退院支援看護師の紹介をさせていただきましたが、早速いくつかの施設との間で、カンファレンスをさせていただきました。入退院支援看護師が橋渡しの存在として活動し、地域全体で、病気を有し・障害がある患者様をうまく、病院・診療所・施設などで連携しながらスムーズに・継続的にフォローできるように努力していきたいと思っています。

発行責任者;豊栄病院病院長 宮島 透

当院栄養科の紹介 平山栄養科主任

豊栄病院栄養科は、管理栄養士2名、調理師9名、調理助手2名のスタッフで日々業務を行っています。主な業務として、まずは病院食の提供をしています。日々の献立は8週サイクルで繰り返し使用していますが、季節に合わせて果物を変更したり、クリスマスやお正月、土用の丑の日などには特別な献立での提供を行っています。また、ご高齢の